獣害対策を手段とした地域振興「美郷バレー構想」

取組のあらまし

取組団体　島根県美郷町

取組内容　イノシシによる獣害を逆手に山クジラ地域ブランドの取組を実施。鳥獣対策版シリコンバレーを目指す。また、獣害対策で培ったノウハウを基に産官学民での連携による持続可能な地域振興を図る。

推進体制　３名（令和７年度）

予算等　なし（令和７年度）

1　鳥取県美郷町の概要

人口	4,034 人	令和７年１月１日現在（住民基本台帳人口）
職員数	92 人	令和７年４月１日現在（一般行政部門：教育部門等の事例は各々の人数）
	180 人	※会計年度任用職員を含める
総面積	282.92 ㎢	令和７年 10 月１日現在（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」）

図表 1　鳥取県美郷町の位置図

出所：美郷町ホームページ

2　取組の背景・目的

（1）日本における獣害の現状

鳥獣被害の深刻化・広域化を踏まえ、平成 19 年 12 月に鳥獣被害防止特措法が成立した。また、被害対策の担い手の確保、捕獲の一層の推進、捕獲鳥獣の利活用の推進等を図るため、平成 24 年、26 年、28 年及び令和３年に改正された。

野生鳥獣による農作物被害額は令和５年度には 164 億円にも上った。その約７割が、シカ、イノシシ、クマ、サルによる被害である。

鳥獣被害は営農意欲の減退、耕作放棄・離農の増加、さらには森林の下層植生の消失等による土壌流出、希少植物の食害等の被害ももたらしており、被害額として数字に表れる以上に農山漁村に深刻な影響を及ぼしている。

また、捕獲の担い手の高齢化が進み、特に銃猟を行える者が減少している。広域捕獲等の計画策定を含めた高度な捕獲を行うことができる人材も不足しているのが現状である。

（2）美郷町の歴史と現状

美郷町は、中国山地を縫う江の川中流域の山間に位置する。古くは隣接する大田市の世界遺産である「石見銀山」から採れた銀を瀬戸内海へ送り出した銀山街道沿いに栄えた町だった。市の面積の約９割が山林であり、長くイノシシによる獣害被害があったため、その対応ノウハウが蓄積されている地域でもあった。

近年は、過疎・人口減少が著しく、医療・福祉、買い物移動手段、農商工の担い手不足などの課題を抱えている。

3　取組内容

（1）「美郷バレー構想」

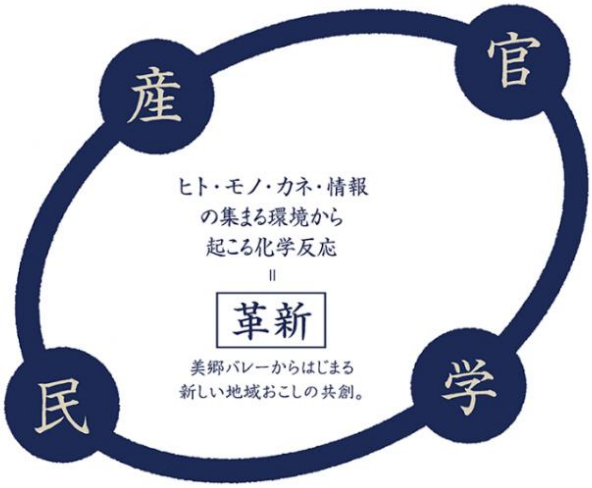
アメリカ・カリフォルニア州シリコンバレーは、訪れれば新しい技術や情報、人脈が手に入るといわれる、世界経済をリードするハイテク産業の中心地である。そこで美郷町は、日本をリードする鳥獣害対策版シリコンバレーを目指し、一つの取組を始めた。これが「美郷バレー構想」である。

特色として、あくまで獣害対策は手段であり、最終的な目的を「地域振興」であるとするところが挙げられる。また、令和元年度の開始から６年経過して、取組の成果は獣害対策にとどまらず、林業分野をはじめ地域振興に波及している。

ア 産官学民による連携

美郷バレー構想では、美郷町が長年蓄積してきた獣害対策のノウハウと人的ネットワークをベースに、産官学民が分野横断で互いに刺激し合って地域活性化の革新につなげていく「共創」の環境づくりを行う。

図表 ２　美郷バレーにおける産官学民の考え方



出所：美郷バレー構想について

① 美郷バレー課（行政）の新設

美郷町では､平成 11 年度からイノシシによる獣害を逆手に取った地域づくりとして、山くじら（猪肉）地域ブランドの取組を実施していた。全国から視察が絶えないこの取組を町の強みであるとし、取組を更に進化させ地域活性化を産み出すべく、美郷町は令和元年度に美郷バレー構想を掲げ､「山くじらブランド推進課」を新設した。取組の進行に合わせ、令和４年度には「美郷バレー課」と名称を改めた。

② 美郷バレー協定と美郷バレーきゃらバンの取組（産業、民間）

鳥獣対策及び地域活性化を目的とした美郷バレー協定数は 12 協定にも及ぶ（2024 年５月現在)。認定鳥獣捕獲当事業者である協定企業が､全国でも稀な住民主体の駆除班組織にも加わることで､将来的な捕獲担い手不足の解消と野生イノシシの豚熱対策も担う。

また、協定企業が地域に入っていき、防護柵の適切な設置と収穫までの維持管理の指導・研修などを行う「美郷バレーきゃらバン」の取組によって獣害の軽減にも成功している。

③ フィールドワークセンターの開設（大学等）

令和３年４月、麻布大学（神奈川県相模原市）が美郷町内に教育研究拠点として開設したフィールドワークセンターには、獣害対策を始めとする地域の課題解決のための調査研究活動を行う学生が多く訪れる。ここで開催される大学講座、生涯学習や学生のゼミ合宿を通じて、地域住民との交流、町内の賑わいが生まれている。

美郷町にとっては、高等教育機関の誘致にもつながっている。

④ 鳥獣害対策機器製造販売メーカーの進出（企業）

フィールドワークセンター開設と同じくして、令和３年４月、美郷バレー協定企業の一つであるタイガー株式会社（大阪府吹田市）が、美郷町を獣害問題における課題解決の駆け込み寺のような場にしたいという地域貢献の思いから、美郷町に営業所を開設した。企業は獣害対策における最先端の町で実証実験を行うことができ、その対策ノウハウを全国にある支店を通じて普及・提供することができる。美郷町にとっては、企業誘致による雇用創出、社員の移住及び定住につながっている。

⑤ ドローンによる苗木運搬等による林業省力化（企業）

林業事業者の苗木運搬等の労働負担が、今だ、改善されていないことは全国的な課題となっている。そこで美郷町では、苗木運搬・植栽等の作業効率を図り、林業従事者の作業量の低減・労働力の軽減を図っていくことを目的に、協定企業団体の古河電気工業株式会社、邑智郡森林組合、タイガー株式会社等と連携し、林業分野での苗木運搬のドローンの活用による実証試験を令和４年度からスタートした。令和６年度には、古河電気工業株式会社の立ち合いの下、森林組合とタイガー株式会社の業務契約締結による苗木運搬を実現するなど、苗木運搬等の業務においてドローンを実用化することで林業労働環境の改善の一助とした。

⑥ 旧三江線の線路敷を使った鉄道林の活用（森林再生実証実験）（大学・企業等）

令和６年度、美郷町は JR 西日本と連携して、平成 30 年４月に廃線となった旧三江線沿いの、美郷町内に JR 西日本が所有する森林（鉄道林）について、水源涵養、土砂災害防止、生物多様性の確保、CO2 吸収など、森林が持つ多面的機能を効果的に発揮させることを目指して森林再生実証実験に取組んだ。この実証実験には、JR 西日本、広島大学、鳥取大学が共同で研究しており、旧線路敷を活用した木材搬出技術の実証、評価や、線路敷周辺の森林資源活用可能性評価など、赤字ローカル線の存続論が各地で活発化している昨今における先駆け的な取組みの一つであるとし、継続して実施されている。

4　成果・課題

（1）取組の成果

美郷町では平成５年度から、全ての問題の起因となる人口減少問題を最優先事項として様々な施策を展開しており、美郷バレー構想は、「美郷町の勝ち残りのための最重要戦略」として位置づけられている。

この方針に基づいて推進された取組により、獣害対策や獣害被害の軽減に留まらず、将来的な捕獲担い手不足や地域の賑わいづくりなどの社会が抱える課題の解決にも成果を挙げている。

（2）今後の課題

美郷バレー構想は順調に進行し、その取組の進行段階に合わせ、これまでの「知による知の誘致」のフェーズから「知による人の誘致」のフェーズへ着実に移行してきている。今後は、取り組みの深化と美郷バレー関係機関の重層化による持続的な取り組みにつなげ、町の魅力向上を図ることで、美郷町に移住・定住せずとも、経済的な恩恵や地域活力の向上につなげていく「活動人口」「滞在人口」の創出が期待される。

関連・参考資料

地方自治研究機構『自治体法務研究 No.77 2024 夏号』p.43-45
美郷町ホームページ「美郷町の概要」
https://gov.town.shimane-misato.lg.jp/about/92
農林水産省「鳥獣被害の現状と対策」
chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/attach/pdf/240605-54.pdf
美郷町役場　美郷バレー課「美郷バレー構想」
https://www.town.misato.shimane.jp/yamakujira/index2.html